

\* \* \* \*

モクセイ科 *Linociera intermedia* Wt. の胚発生を報告する。薬の壁は纖維状の endo-thecium でつくられる。タベタムは分泌型である。花粉は tricorpate, まれに tetracorpate で、薬内で 2 級胞期まで成長する。胚珠は直生、薄層珠皮は 1 枚。珠心内部は 1 個の胞原細胞からなり、それが直接大胞子母細胞になる。胚囊形成は *Polygonum* 型である。胚乳形成は Nuclear 型で、成熟すると種皮内面の不規則な成長によって胚乳表面に rumination がつくれる。胚形成の様式は Souéges (1942) や Maheswari Devi (1958, 1975) が他のモクセイ科の種で報告したものと同じである。

□Jefferson, R. M. & K. K. Wain: *The nomenclature of cultivated Japanese flowering cherries (Prunus): The Sato-zakura group.* U.S. Department of Agriculture, National Arboretum Contribution No. 5, 44 pp. 1984. 日本のサトザクラ類の園芸品種の名称をできるだけ整理統一しようとして作られたリストである。野生種との関係が不明な雑種起源のものもふくまれていて、学名の下にではなく、全部を ‘The Sato-zakura group’ の総称の下に扱かって、品種名のアルファベット順に配列し、同意語は相互に引きだせるようにいれてある。正しい品種名として採用した名の下に、その文献が引用してある。例えば ‘FUGENZO’ の項には、水野元勝 (1681) に初まり、*Prunus serrulata* var. *veitchiana* Bean (1914) まで多くの文献が引用されている。終りに引用されなかった園芸品種名のリストと文献のリストがある。日本から見ると不十分な点や落ちている名も多く、植物学的には物足りない点もある。例えば ‘NADEN’ もふくまれているが、*Prunus sieboldii* Wittm. や *P. koidzumii* Makinoなどの名はでてこない。しかし日本のサクラの園芸品種に興味のある人には便利なリストである。定価は明記していないが、National Technical Information Service, 5285, Port Royal Road, Springfield, Virginia, 22161, U.S.A. で購入できる。 (原 寛)

□国立科学博物館：国立科学博物館蔵書目録和文編1984年版 684 pp. 1984. 同館発行。非売品。科学博物館の図書はカードやリストが不備で文献の探索に不便であったが、このたび同館図書課の努力で和文文献の目録が作成された。植物学の部には48頁1394件がリストされている。図書館的センスの分類のため、たとえば、中井：朝鮮森林植物編、その他農林・園芸関係とされた多くの文献は植物学でなく、産業の部に収容されていたりするので、利用には注意を要する。同館の雑誌については逐次刊行物目録が1979年に刊行されており、残るは欧文編のみとなつたが、これも現在進行中である。非売品であるが、主な大学図書館、博物館には配布される。 (金井弘夫)